Press Release

HITACHI

本件は、スイス・チューリッヒにおいて、
11 月 11 日に発表しました。

2026 年 11 月 12 日
日立エナジー

日立エナジー、2026 年 IDC MarketScape の高度配電管理システム分野で「リーダー」に選出

- 包括的な市場調査で、高度配電管理システム (ADMS)提供企業 8 社を評価
- 電力供給の維持、停電からの迅速な復旧、複雑化する電力網の安定運用を、重要業務を担うソフトウェアで支援



日立エナジーは、IT 分野の調査会社であるインターナショナル・データ・コーポレーション (以下、IDC)が発行した調査レポート「IDC MarketScape: Worldwide Advanced Distribution Management Systems 2026 Vendor Assessment」(2026 年 10 月発行、ドキュメント番号#US54133826)において、「リーダー」に選出されました。本レポートでは、電力・公益事業業界にサービスを提供するうえでの能力と戦略について、定性的・定量的な評価基準に基づき、8 社の高度配電管理システム (Advanced Distribution Management System、以下、ADMS)プロバイダーを評価しています。



黄色で示された日立エナジーは、「IDC MarketScape: Worldwide Advanced Distribution Management Systems 2026 Vendor Assessment」において「リーダー」に選出されました。出典：IDC、2026年10月、Doc #US54133826

IDC MarketScapeのベンダー分析モデルは、特定の市場におけるテクノロジーおよびサプライヤーの競争力を概観することを目的としています。調査では、定性的・定量的な評価基準に基づく厳格なスコアリング手法を用い、各サプライヤーの市場におけるポジションを1つの図に示しています。

「Capabilities (能力)」スコアは、短期的な観点から、サプライヤーの製品、Go-to-Market (市場展開)、事業遂行力を評価します。「Strategy (戦略)」スコアは、3～5年の期間において、サプライヤーの戦略が顧客の要件とどの程度整合しているかを評価します。各サプライヤーの市場シェアは、アイコンの大きさで示されています。

日立エナジーの ADMS 分野での評価を紹介する IDC MarketScape の抜粋版 (英語サイト)
https://www.hitachienergy.company/tYc

IDC エナジーインサイツのシニア・アソシエート・アドバイザーであるジャン＝フランソワ・セガロット氏は、「家庭や企業は、電力網が複雑化する中でも、安定した電力供給を必要としています。ADMS は、電力会社がこうした複雑さに対応し、停電時に対処するために必要な状況把握と制御を支えます。日立エナジーの「リーダー」認定は、統合プラットフォームの充実した機能、停電管理と復旧に関する機能、そして数十年にわたって培い、お客さまに提供してきた電力系統エンジニアリングの専門性が評価されたものです」と述べています。

複雑化する電力網の運用を支える ADMS

高度配電管理システム(ADMS)は、家庭や企業に電力を届ける配電網の監視・管理を支援します。電力網のデータと運用ツールを統合し、制御室の運用担当者が問題の兆候を把握し、対応策を検討するとともに、停電時には安全に電力供給を復旧できるよう支援します。

屋根設置型太陽光発電、蓄電池、電気自動車の普及により、もともと一方向の電力供給を前提に設計された電力網が変化する中、こうした状況把握と制御の重要性は一層高まっています。電力需要の増加、インフラの老朽化、異常気象も課題を複雑にしており、運用担当者には、変化する状況を把握し、迅速に対応することが不可欠となっています。日立エナジーの Network Manager ADMS*1 は、電力網の最新状況を運用担当者間で共有し、その情報を具体的な対応につなげるためのツールを提供します。これにより、電力会社の次の取り組みを支援します。

- 電力網の信頼性とレジリエンスの強化
- 停電時間の短縮と復旧の迅速化
- 分散型エネルギーリソース(DER)や再生可能エネルギーの連系拡大
- 自動化による運用効率の向上
- 規制要件への対応支援と、事業運営に必要な許認可の維持

これらの機能は、日立エナジーが電力事業分野で 130 年以上にわたり培ってきた経験と、世界各地で数十年にわたり積み重ねてきた電力系統運用ソフトウェアの開発実績に基づいています。

*1 Network Manager Advanced Distribution Management System (ADMS) (英語サイト)

IDC は本レポートにおいて、「日立エナジーは、欧州を中心に、電力網の自動化・制御システムのエンジニアリングを担う豊富な技術人材を有している。これは、30 年以上にわたり Network Manager を開発してきた ABB 社のパワーグリッド

部門から受け継いだものである。その継続性はソリューションにも表れている。プラットフォームの SCADA(監視制御・データ収集システム)基盤は送電・配電で共通化されており、配電系統の状態推定機能は、すべてのリソースから遠隔計測データを取得しなくても、DER の導入率が高い状況に対応できる。また、一部の運用担当者は、標準製品の範囲にとどまらない個々の電力網固有の条件に対応する機能開発に、同社が応じる姿勢に着目している」と評価しています。

同レポートは、「SCADA、DMS(配電管理システム)、OMS(停電管理システム)、開閉操作、DER を考慮した系統運用機能を高度に統合したプラットフォームを求める場合、日立エナジーを検討すべきです。特に、共通のリアルタイム系統モデル、優れた停電管理・復旧機能、高度な系統解析、送電制御システムと配電運用を連携する機能を重視する、大規模または複雑な電力事業者に適しています」と提言しています。

日立エナジーのエンタープライズソフトウェア プロダクトグループ グローバルヘッドであるアンディ・ハウエルは、「電力会社には、より複雑な電力網と一層厳しくなる運用条件に対応しながら、電力網を適切に制御し、供給を維持することが求められます。当社の Network Manager プラットフォームは、データ、システム、人を結び付け、一体となって機能させることで、運用担当者がこうした複雑さに対応できるよう支援します。リアルタイムの状況把握を、的確な意思決定と連携した対応につなげます。数十年にわたる導入実績を基盤に、導入、システム統合、トレーニング、サポートの各サービスを提供し、電力会社が、お客さまの暮らしや事業を支える安定した運用を維持しながら、電力網の高度化を安全に進められるよう支援します」と述べています。

変化する電力網のニーズに応える設計

日立エナジーの Network Manager ADMS は、配電用の SCADA*[2]、高度な系統解析・運用アプリケーション、停電管理*[3]、データ分析を、企業の基幹業務に対応する単一のプラットフォームに統合します。リアルタイムの運用状況を共有することで制御室と現場作業員をつなぎ、電力網のレジリエンス、安全性、効率の向上を支援します。

*2 Network Manager SCADA および制御システム

*3 Network Manager Outage Management System (OMS) (英語サイト)

本プラットフォームは、分散型エネルギーリソース(DER)の最適化と再生可能エネルギーの連系を支援します。また、予測ツールにより、運用担当者が暴風雨などの悪天候に備えられるよう支援します。データ、人、自動化システムを結び付けることで、電力会社の停電時間の短縮と、より柔軟で持続可能な電力システムへの移行を支えます。

Network Manager ソリューション群の詳細についてはこちらをご覧ください(英語サイト)。

IDC MarketScape について

IDC MarketScape ベンダー評価モデルは、特定の市場における IT サプライヤー、サービスプロバイダーの競争力の概要を提供するように設計されています。この調査では、定性的および定量的な基準に基づく厳密な採点方法を用いて、特定の市場内における各企業のポジションを単一のグラフィカルな図で表現します。IDC MarketScape は、IT ベンダーの製品・サービス、能力、戦略、現在および将来における市場での成功要因を有意義に比較できる明確なフレームワークを提供します。また、このフレームワークを利用することで、IT バイヤーは、対象ベンダーの現在および将来にわたる強みと弱みを 360 度で評価できるようになります。

日立エナジーについて

日立エナジーは、現在そして今後 25 年間のエネルギー需要に応えるべく、電力の時代を支え、次の未来を切り拓くグローバルリーダーです。日立グループのエネルギー事業部門として、先進的かつミッションクリティカルな技術で、30 億人以上の人々の生活を支えています。当社は、100 年以上に

わたるイノベーションを通じて、エネルギー分野の喫緊の課題に取り組んでいます。それは、現在、そして次世代のために、豊富で安全、経済的かつ持続可能な電力を確保するため、世界のエネルギーシステムの進化を推進することです。世界 140 カ国以上での豊富な導入実績を有し、電力、産業、データセンター、交通の各産業分野のお客さまと長期的なパートナーシップを築いています。スイスに本社を置き、60 カ国で 56,000 人以上の従業員を擁し、約 2 兆 4,000 億円の事業規模を有しています。

日立エナジー関連リンク

https://www.hitachienergy.com/jp/ja
https://www.linkedin.com/company/hitachienergy
https://x.com/HitachiEnergy

日立製作所について

日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、社会インフラをデジタルで革新し続けるグローバルリーダーをめざし、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エナジー、モビリティ、コネクティブインダストリーズの 4 セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略 SIB ビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumada をコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2025 年度(2026 年 3 月期)売上収益は 10 兆 5,867 億円、2026 年 3 月末時点で連結子会社は 606 社、全世界で約 29 万人の従業員を擁しています。詳しくは、www.hitachi.com/ja-jp/をご覧ください。